半田商工会議所創立130周年記念 正副会頭座談会　後編

新しい10年、20年に向け
時代の変化を機敏に捉える

小柳　産業振興について触れていきます。コロナ禍以前は長く「安定と停滞」がキーワードとして続いてきました。コロナ禍によって経営の根幹を見直すことが進み、ビヨンドコロナのこれから、「変動と淘汰」に対応していくことが求められてきます。そこに自社の存在価値を高めていく「自己変革」がキーワードになります。商工会議所の経営支援もこれまでの「課題対応型」から経営そのものを問う「課題設定型」の伴走支援に取り組んでいきます。個々の経営支援と併せ、頑張る経営者の環境づくりも後押しし、半田市と共に議論していきます。

久世市長のもとで昨年7月にスタートした半田市産業振興会議については、前会頭の榊原康弘顧問を委員長として松石会頭を始め商業、工業、農業の各分野の方々が委員を務めて、半田市の産業分野における振興策の道筋を具体的に描きながら「事業者を元気に」というコンセプトを踏まえて、商工会議所が見据えている雇用創出につなげていきたいと考えています。

社会構造の変化という普遍的な課題を抱えていく中で、将来にわたる半田市の発展と直結する産業分野の役割、使命などを見据えてどのような想いを持たれているのか、最近の振興会議の動きと合わせながらご意見を聞かせてください。

松石　企業経営者は、短期的・長期的な将来を見据えて事業計画を立てます。例えば、今日本は人口減少と人口構造の変化、少子高齢化の課題を抱えています。働く世代の人口が減少してくる中で、半田市が将来どのような人口動態・構成となるか、明確に推計していくことが必要です。このまま放っておけば半田市も間違いなく他市町と同じように人口は減少し、働く場所、人、雇用の機会が少なくなります。地域をしっかり支えるためにはどうしたら良いか？ 半田市を始めとする知多半島全体の大きなビジョンを描いていく必要性を最優先に考えるべきと感じています。今、近隣市町でも人口が減少し、水道代を値上げしなければいけないというような話が出てきています。今まで同様にインフラを支えようと思えば、一人当たりの負担が増えていきます。人口減少が一番大きな課題だと思います。雇用を支えるための産業を、いかに維持・成長させていくか 。取り組みを加速させていかねばならないと考えています。

中埜　言葉が適切かどうか分かりませんが、産業振興は転換期にあるように思います。昨年榊原会頭から松石会頭に変わったことも大きな転換期で、時期はずれますが、半田市長も20年ぶりに民間出身者になりました。産業振興も中心市街地活性化も、明確に今までとは違うトーンで市長が声を発しています。我々も新しい方向に取り組んでいかなければいけないと思っています。商工会議所と行政を両輪とすると、機関車が新しくなったので新しいやり方を画期的に進めていって欲しいと思っています。

小柳　たまたまそのような転換期とも言えるタイミングがここ数年の中で生じているので、理解をし合いやっていくチャンスかもしれませんね。

水野　産業振興は深くて大きな課題ですが半田は歴史も文化もあり産業も江戸時代から発展してきた古いまちなので、醸造、輸送関連、海運などの基幹産業がしっかりと発展していくということが地域力のバロメーターになるのではないかと思います。そこの足腰が強くなるというのは、それが外に向けて事業を展開して人とお金を呼び込んでいく原動力になっていきます。それとプラスして、一次産業を強くする必然性を感じます。半田は酪農が盛んな地域ですので、酪農を含めた農業を発展させていくことは半田にとって重要です。

そのために産官学金の連携の下にどうビジョンを描くか、それぞれの役割をしっかり果たしていくことです。産業振興は産業界だけでやることは出来ないし、行政だけでやろうとしても上手くいきません。そこに地元金融機関がしっかり支え発展させていくことが必要で、歴史上ずっとそうだったと思うんですね。循環型の社会をどう作っていくかというようなことが産業振興会議で語られていくといいなと思います。同時に産業誘致をしっかり行っていくことも重要な要素になってきます。

小柳　基幹産業、根幹を維持しながら、民間だけでなく行政、研究機関や金融機関など、オール半田でしっかり作っていくのが、これからの姿なのでしょうね。

間瀬　産業振興会議で様々なことが語られていると思いますが、その通りに行くかというと課題も多いですね。そこに従事する方がたくさん集まってきて、その中で好循環が生まれれば収益が出てくると考えますので、水野副会頭の言われた金融機関も入れての好循環も大事ですし、そこを担うのが商工会議所で、それをしないと地域は発展しないと私は思っています。

小柳　産業だけではなくて、市場があり、人がいる、という関係が成り立って、初めて好循環を作っていくことができます。その中で、商工会議所も仕掛けることができる一つの存在という認識でいます。半田市全般の産業振興を様々な角度から捉えていくことも大事ですが、その中にあって中心市街地に目を向けていくということが喫緊課題の一つと捉えています。JR武豊線の高架化が進み、計画では、2027年度（令和9年度）に工事が完了していきます。まちの変化を見据え、半田市は昨年12月より、中心市街地の活性化、六次産業化を通じた農業者支援として民間人材を任用しました。商工会議所を始め、各ステークホルダーと連携を図り、半田らしさのあるまちづくりを進めていこうと動き始めています。商工会議所は事業者側の立場を念頭に活性化を推進していきますが、中心市街地の将来像、具体的な取り組みについてご意見をいただけますか。

松石　非常に難しい所があり、一つだけの局面で見れば中心市街地をどういうまちにして、どうしていくかという議論がなされます。まちをトータルで見た時に中心市街地の役割はどうすべきか？ コンパクトシティといわれますが、例えばマンション、病院、スーパーがあり、半径何百メートルでコトが済んでしまうまちを半田の玄関口として目指していくのか？ 逆に外からの消費流入を含めて大勢の人たちがそこに集まり、ショッピングとか飲食ができるなど、どのようなまちのカラーにしていくのかを、しっかり皆でコンセンサスを取りながら作っていくことが必要です。活性化するから、コンパクトシティだから、というだけでなく、まち全体のトータルビジョンを考えた上で中心市街地はこういうまちにしましょうとしていくことが第一です。JRが高架になることは非常に良いことですが、名鉄の高架化に対しての動きは少し沈静化している

副会頭　水野 貴之　　会頭　松石 奉之

ので、新病院の建設も含めて名鉄の高架にも我々が先頭を切って取り組んでいき、まち全体の交通インフラ整備を考えた上での中心市街地という捉え方をぜひしたいと思っています。

中埜　中心市街地活性化については、やり方や方法論、これからやろうとしていることの議論はあるでしょうが、久世市長が中心市街地活性化を明確にされたことは高く評価すべきと思います。昔の名鉄知多半田駅前の華やかな状況を知っている人から見ると、何とかならないかとずっと思ってきています。名鉄知多半田駅前の活性化は半田市民の悲願のようなものです。

商工会議所としては全面的に支援して何とか成功に導いていかなければならないと思います。市域で亀崎、青山地区等がある中、なぜ名鉄知多半田駅前なんだという意見が出るかもしれませんが、先ずは名鉄知多半田駅前から手掛けるという明確な市長としての判断なので、商工会議所はそれをちゃんと受け止め、協力したいと思います。

水野　昭和の頃は地価が年々上がっていくような土地神話があり経済が勝手に発展していきました。そんな時代背景の中での計画がそのまま実行されたのが名鉄知多半田駅前だったと感じています。当時は計画通りに進めて終わらせることが最大の目的だったので、どんなまちにしたいのかという想いを地域住民と行政が一緒に共有ができず、時間と施工だけが進んでいったのでしょうね。これからまちが歴史を作り始めるという風に前向きに考えていけば、昭和の頃の中心市街地駅前は過去のことであって、令和の今、行政が半田市中心市街地活性化推進方針を策定してくれたので、そこに住む人たちが住みやすい、商売がしやすい中心市街地にするにはどうするかということを会議所もチャレンジし続けていくことだと思います。

それが急に出来るわけではないと思いますので、20年、30年しっかり腰を据えて、行政と手を取り合ってやっていくしか方法はないと思います。時には見直しがあるかもしれませんが、それは絶対に必要なことだと思います。そうでないと、何のためにやっているのか、誰のためにやっているのか分からなくなってしまいます。あとは途中で投げ出さないことです（笑）。

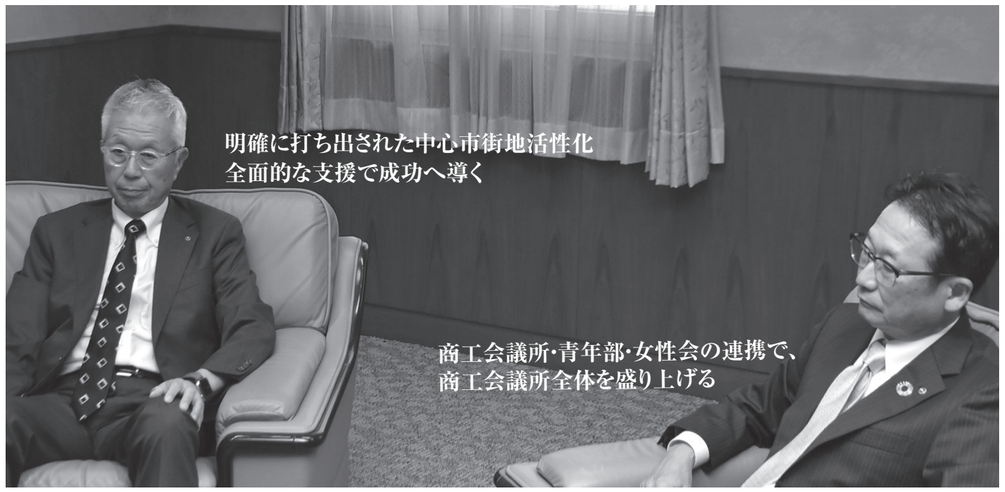
小柳　間瀬副会頭は金融機関という立場で店舗も中心市街地に立地していますが、その点はいかがでしょうか。

間瀬　一つのものをやり遂げるには、完成形があってそれに対して思い立ってやっていくのではなく、明確な将来のビジョンに向かってスピード感を持ち、同時に様々な課題に取り組んでいかないと事業は完成しないと思っています。これは半田市のメイン事業なので我々も努力をして応援していく形が良いかと思っています。

小柳　商工会議所の関わり方も、より内面に入っていきながらと想定しています。今は準備をしっかりしていく必要があると考えています。

松石　形を作るだけではなく、我々が考えなければいけないのは、実を結ぶ中心市街地にしなければならないということです。水野副会頭が言われたように、そこに来た商売人が儲かるか、住民が住み良さを抱くか、実がある形で実現できる中心市街地を行政と一緒に作っていくために、我々も絶対失敗しないよう努めていくことが大事な点だと思います。形ができたらそれでいいというだけでは済まないですね。

水野　人がそこに寄らないと意味がないですからね。



副会頭　中埜 喜夫　　副会頭　間瀬 朱実

小柳　まちの変化に合わせ、改めて中心市街地活性化に踏み込んでいきます。商工会議所としてもしっかりそこに歩調を合わせていきたいと考えています。商工会議所も社会一般と同様、持続可能な社会を目指す中で、2030年・2050年を目標に見据えた将来に向け、動き出している段階です。

知多半島地域全体の経済的発展を目指して商工会議所の発足に奔走した明治期の半田の実業家たちの志を受け継ぎ、先人たちの努力によって130年の歴史を刻み続けているのが半田商工会議所です。今を担う正副会頭の皆さんは、その志をしっかり受けとめ、責務を背負い、更には不断の努力を続けておられます。これから歩み出す140年・150年に向けての想いを聞かせてください。

中埜　130周年だからということではありませんが、今の半田商工会議所のテーマとして是非やらなければいけない、やりたいなと思っているのは、コロナ禍以前から課題であった他の商工会議所との連携です。様々な連携がありますが、商工会議所として地域性を踏まえた商工会議所・商工会との連携を進めていくことがこれからの重要な方策になっていくのかなと思います。

水野　半田市内だけの経済を見ているのではなくて知多半島の中での半田、もしくは名古屋から見た半田、という視点も鑑みながら、半田の経済活性化等を図っていくことが大切だと思っています。少なくとも知多半島の中では、半田はリーダー的な役割を果たしていかなければいけないし、商工会議所もリーダーシップを取るだけの改革をしていかなければいけない。今日よりも明日を良くしていく、結果を出していく商工会議所でなければならないと思います。過去に感謝をしながら、自信を持って次代にバトンを渡していけるような商工会議所にしていければと思っています。

間瀬　連携は大事で情報交換をしなければ進歩はありません。他所の良い所を吸収しながら、自分たちの良い所も発信しながら互いに伸ばしていくことが大事だと思います。半田商工会議所本体と、青年部、女性会が一体となりつつある状況で、この連携を強めて情報交換をしながら、半田商工会議所を盛り上げていけば、きっと良い方向に向かうと私は思っています。

松石　半島という特色がある中で、知多地域経済会議として知多の経済界が結びつくという土壌と、5市3町の衣浦港振興会として港域による連携があります。半田はその中心点にあります。半田のことだけでなく、広域の経済圏の発展を半田が中心となって考え、担っていくということは非常に重要な使命です。

我々が思っている以上に、他市町の商工会議所や商工会からの半田に対する期待感は高いものがあります。副会頭の皆さんの力をお借りしながら、半田商工会議所が真にこの地域を引っ張っていけるか、力をいかに発揮できるかは、この地域の発展にとって大事なことと思っています。更に、我々がもっと進めなければならないのは、広域連携という中での人と人とのつながりです。実に多くの様々な方とお会いする中で、自身が『井の中の蛙』だったという気持ちを抱いており、人のつながりは地域の元気さにつながると感じています。

我々がそのようなチャンスを会員の皆さんに向けて作っていくことが大事です。そこから何か新しいものが生まれてくる、そんなことを思っています。是非アクティブに、商工会議所活動を産官学の連携で実現したいと思っています。そして、農業分野も関係性を深め、“農商工会議所”となれるくらい連携の輪を広げていくことは非常に大事だと思っています。

小柳　半田が持つ強みの一つは農業分野、特に畜産関係です。この強みもしっかり活かした産業分野の連携もあるかと思います。広域というキーワードでは、半島、港湾という背景があり、更に引き伸ばしていくということが大事だと思っています。コロナ禍が明け、再始動していく中で、改めて原点に立ち返りながら進めていくべきではないか、正副会頭の全般的な意見だと受け止めています。新しい10年、20年に向け、挙げられたキーワードを大事にしながら進めていくことで、地域のリーダーシップをしっかり取っていく商工会議所として、会員の皆さまの力もお借りしたいと思います。

松石　歴代の会頭諸氏が創り上げていらっしゃった130年という長い歴史の時間経過と、これからの130年はスピード感が全く異なり、積み重ねてきた歴史がもしかしたら13年で動いてしまうかもしれないくらいに時代の変化が速くなるような気がします。今言われている空飛ぶタクシーが許認可さえ下りれば飛んでいくよ、とか。かつて携帯電話はスパイ映画しか出てきませんでしたが、今では誰もが使う時代に変わってきています。この先の10年、20年はすごいスピード感を持って変わっていくでしょう。そこの変化を機敏に捉えていくまち、商工会議所でなければならないと思います。会員事業所をはじめ、議員・役員皆さんのご協力をよろしくお願いします。

聞き手/専務理事　小柳 厚